

令和3年度第1回中空知定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事録

開催日時：令和3年10月26日（火）10：00～11：25

開催場所：砂川市役所2階大会議室

出席委員：小磯座長、居林副座長、三戸部委員、阿部委員、黒坂委員、上坂委員、萬委員
逆井委員、朝日委員、梅野委員、村本委員、作田委員、大下委員、伊藤委員、佐藤委員
首藤委員、渡辺委員、小松委員、藤澤委員、宮本委員、山口委員、高村委員

1. 開 会

- ・委員27名中22名が出席し、過半数に達しているため、設置要綱第6条第2項の規定により会議が成立している旨を報告。

2. 委員紹介

- ・事務局より出席委員紹介

3. 挨拶

- ・主催者として滝川市長より挨拶
- ・開催市として砂川市長より挨拶

4. 議題

(1) 第2期中空知定住自立圏共生ビジョンの進捗状況について

資料3-1、3-2、参考資料に基づき、数値目標やKPIに対するR2達成状況を報告

(委員) コロナ禍で外出制限などがあり、ほとんど社会と断絶しているような状況になった。出来る限り感染者が少ない中で、制限なく活動できればと思っている。この一年についてはコロナの状況で経済など制限されているので、1日も早く解消されれば。

(座長) 感染者が少ない状況が続けば良いと思っている。多様なご苦労が長くあったものと推察する。

(委員) 滝川市は図書館運営を大変一生懸命取り組んでいる。新型コロナウイルス対策として、予定していた事業を巡回展に変えて実施したとのこと。色々工夫して実施している。対策や事業の展望を考えて頑張っているとのこと、ご利用いただきたい。

(座長) 私も地域政策の研究者として北海道で活動しているが、最近注目しているのが図書館で、特に滝川市は市役所にあり、良い意味で行政と連携している。まちづくりの大切なテーマを図書館でもしっかり取り上げて情報提供していただけており、地域に積極的に関わる活動をしていて評価も高い図書館。コロナ禍で閉じこもってしまう状況もある中で、図書館の役割はオンラインでの情報提供なども考えられる。引き続き中空知の中でこういう取り組みを進めていただければ。

(委員) コロナの感染拡大によって昨年今年とイベントが全て中止になった。市内で、従業員80名ほどの企業が閉鎖した。再就職に向けて市でも窓口を開設して対応した。市内事業者の慢性的な人材不足を解消するために事業者と求職者のマッチングを支援する取組として市独自の求人情報サイトの運用を開始した。

中空知も人口減少がどんどん進んでいくが、各自治体で減っていかないような取り組みをしていきたいと考えている。

(委員) 有害鳥獣の関係、加工施設での処理数も増えてきていると聞いているが、コロナの関係で市場の流通が滞っている。コロナの制限が改善していかないとなかなか在庫の数を減らせることができないかと思う。今後も利用していただければと考えている。

観光は、イベントが各市町軒並み中止になった。今後どのように運営したらよいか、ガイドラインのようなものがあれば助かると考えている。

(座長) 産業分野への影響、コロナ対策の中で観光、飲食など対面のサービスに対してはかなり長期にわたって深刻な影響が出てきている。観光面では、ガイドラインという話もあったが、観光事業者がかなり疲弊してきている。コロナ前の北海道における観光消費額は1兆6千億円あった。北海道全体のGDPが19兆円くらいだったので、北海道経済を支える最大産業にまで成長してきた。

2020年度は1兆円を超える観光消費額が消失してしまった。ボディーブローのように効いてくる。それをしっかり回復していくということは北海道全体にとっても大事。インバウンドもしばらく見込めない状況の中では、道内、道外(海外に出たい人も出られない状況)の方たちは、北海道や沖縄に行く。そういった意味では、観光の質を高めるのは体験。

ただ単に美しいものを見るときか、美味しいものを食べるというだけではなく、その地域との交流やふれあいの中で体験的な魅力というものも重要になってくる。しばらくは影響を感じているので、団体的に密になって動く形の旅行はなかなか回復しない。個人がしっかり地域と触れ合って体験しながらという面であれば、中空知地域の魅力を活かして行くような新しい観光の取り組みをこの機会にしっかり地域で考え、実践することが将来の観光経済の回復にもつながっていく道筋になるのではないかと、そういう想いで取組んでいる。

(委員) 消費生活相談は前年度より2割ほど増えている。これまでの相談内容は、訪問販売や電話勧誘販売だが、頼んでいない品物が送られてきた、通信販売では健康食品や化粧品など一度きりと思って申し込んだが定期購入の申し込みで毎月来るなどでそれを知らなかったので解約したいというもの、メールの場合だと、詐欺まがいのメール受信などの相談など、これまでになかった相談。

その他として、コロナ禍による外出自粛で、路線バスが減便されると時間帯によって混みあうため、コロナウイルスの感染が心配であり公共交通機関としてもう少し考えてもらいたいという内容の相談もあった。

高齢者も多く居住されているので、地域包括支援センターの職員を通じての相談も多く、高齢者の方でもセンターの方へ足を運ぶのが難しいというようなこともあり、私が伺って話を聞いて解決するという対応が多くなっている。

小さい町だからこそ、細やかに相談に対応をするということを住民課職員やセンター職員も大事にしているのではないかと思う。訪問すると、その方の生活状況もわかり、一つの相談で二つ三つ出てくる場合もあるので、訪問させていただいて生活状況を把握させていただくということで対応している。

(座長) 直接訪問されることで色々な課題に幅広く対応、聞き取りできるということで興味深い。地域公共交通の関係は、人口も減っていくので大変厳しい状況であるが、最低限公共として維持していくべき路線もある。広域的な中でしっかり協議していくべき大事なテーマだと感じた。

(2) 第2期中空知定住自立圏共生ビジョンの改訂について

資料4に基づき、第2期共生ビジョン改訂案を説明

質疑無し

(振興局) 北海道としても広域的な取り組みに対して支援など進めている。中空知地域についても色々な分野で広域的な取り組みをされているところ。

最近でいくと地域公共交通は、法律が改正となり、広域的な計画の策定に関しては都道府県が策定するよう言われている。そういったことを踏まえて特に滝川市内・砂川市内を中心としたバスネットワークが多いので、そうした市町村を跨る路線を中心に、効率的な公共交通に関しても広域的な取り組みであるため、北海道としても積極的に取り組んでいけるように支援をさせていただければと思っている。

(3) 今後のスケジュールについて

事務局より、今後のスケジュールを口頭で説明

質疑無し

5. 事例紹介

- ・砂川市における「おくやみ窓口」の取り組みについて

6. その他

7. 閉会